

鳥取大学地域医療総合教育研修センターでの 取り組みについて

もしもの時のあんしん手帳

12月12日、日野町下榎で、ぽかぽか教室を行ってきました。今回は日野町さんが住民さんに配布している『もしもの時のあんしん手帳～大切な人に伝えたいこと～』（鳥取県西部医師会在宅医療推進委員会編）をみんなで考えながら書いてみる時間にしました。

- ①葬式をどんな風にしたい？賑やかにしたい？家族だけでしたい？相続の事は？
- ②寝たきりになった時に胃瘻や点滴はして欲しい？人工呼吸器や心臓マッサージなどの延命治療はしてほしい？
- ③介護が必要になったらできるだけ家にいたい？施設に入る時の費用はどうか？

などの質問にみなさんの経験談をおしゃべりしながら、考えていきました。ここには書けないような具体的で、面白い話が出てきて、あっという間に時間が過ぎていきました。

配布されていたとしても、なかなか書く時間が無いなあとお思いの方もおられると思いますが、何かの機会にみんなでわいわい書いてみてはいかがでしょうか～？

鳥取大学医学部地域医療学講座

講師 井上和興



医学生による病院実習を実施しています！

数年前から実施している医学生による病院実習ですが、今年は医師になる直前の6年生に加えて、5年生100名強による通年の実習も受け入れていただいております。日野病院を利用される皆様の中には、「いつも学生がいるな～」と感じられている方も多いと思います。

このように地域での実習が増えて来た背景には、これまでの大学病院偏重の医学教育への反省があります。診断がついていない患者さんの診察、生活背景や家族関係、価値観などを考慮した医療の実践など、日野病院の実習で医学生たちは、地域の暮らしを支える手段として医療を初めて認識することになります。

このように昨今、地域医療を担う人材の育成が強く求められており、日野病院は鳥取県内でもトップクラスの地域医療を実践、そしてそれを教育することのできる病院なのです。

これにより鳥取大学の医学部を卒業する医師は全員、日野病院で実習をすることになりました。将来日野郡で働くことになる人材はもちろん、日野郡で学び鳥取や日本各地で活躍する人材の育成を日野病院で行なっています。

学生による実習は全て総合診療科の医師の監督下で行われており、患者さんが不利益を被ることはありませんし、患者さんの自由意志の元実施しています。もし学生の帯同を望まれない方は気軽に声をかけていただければ助かりますし、もし医学生を見つけたら、学生にとっては一生忘れられない大切な言葉になるかもしれないので、エールの言葉をかけていただければ嬉しく思います。

受診される患者さんは学生の実習へご協力をお願いする機会もあるかもしれませんが、未来の医療を育てるために、ご協力よろしくお願ひいたします！

鳥取大学医学部地域医療学講座

助教 朴大昊